

令和7年度

2 学年 技術科 年間指導計画・評価計画（第1版）

担当 [二瓶 大地]

教 科 の 目 標	指 導 ・ 評 価 の 重 点 お よ び 工 夫 点			
	知識・技能の定着	思考力・判断力・表現力の育成	学習意欲の向上	学習評価の生徒へのフィードバック
技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することを目指す。	・ICT 機器教材や配付資料等を通して、視覚的・体感的に学べる授業を行い、基礎・基本の定着を図っていく。 ・作業が遅れがちな生徒には個別に対応する時間を確保し、取り組ませていく。	・家庭での実践、体験学習、調べ学習などを通して、学習の連続性をもたせる。 ・ICT 機器を活用して他者との意見や考えを共有し、様々な視点から生活の中の技術について考察する。	・タブレット PC を積極的に活用し、視覚的・体感的に学べる授業を行う。 ・目標を提示し、終末に振り返りシートを活用して目標の達成具合を確認する。	・個々の生徒の学習状況・能力に応じた目標の設定及び評価の工夫を行っていく。 ・ワークシートや実習振り返りシートを活用し、生徒の学習状況の評価を適切に行う。

◎単元（1～数十時間の学習内容のまとまり）は、学習進度および生徒の実態、その他の要因によって変更となる場合があります。その場合は各担当から生徒へ説明を行います。

月	単元・教材	ICT との関わり	時数	学習指導および観点別学習状況の評価の観点等		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	1 エネルギー変換の技術とエネルギーの変換と利用	・プロジェクタ、PC、タブレット PC	28	○生活や社会、環境との関わりを踏まえて、エネルギー変換の技術の概念を理解している。 ○自然界のエネルギーの種類や利用方法、エネルギー損失について理解している。 ○国や地域によって発電事情が異なり、それぞれに応じた発電方法が行われていることを理解している。 ○電気エネルギーの発生する仕組みや電源の種類、特徴について理解している。 ○電気エネルギーを変換する電気回路の仕組みについて理解している。 ○電気回路の製作にともなう基本的な内容が理解している。 ○発電の仕組みについて理解し、それぞれの違いを説明する技能を身に付けている。 ○電気による事故が起きないように許容電流などを考えて電気機器を安全に使用する技能を身に付けている。 ○けがき、切断・切削、組み立てにおいて、用途に応じて工具を適正に選択し、使用する技能を身に付けている。 ○はんだごてを使用し、電気回路の配線をする技能を身に付けている。 ○工具や機器を適切に使用し、製作品の組み立て及び保守・点検を行う技能を身に付けている。	○身の回りにある機器が社会の変化によって工夫されていることを読み取り、技術の見方、考え方に気づくことができる。 ○社会や生活の中からエネルギー変換の技術と安心、安全に関わる問題を見いだし、必要な課題を設定できる。 ○製品の構造や電気回路などを、使用場面などの制約条件を踏まえて構想し、設計や計画を具体化できる。 ○設計に基づいて電子部品や工具を選択し、能率的な作業方法を適切に選択できる。 ○完成した製作品が設定した課題を解決できるかを評価するとともに、設計や製作の過程に対する改善及び修正を考えている。	○身の回りのエネルギーに関心を持ち、エネルギーの各種変換方法やその特徴及び利用について調べようとしている。 ○日常生活において、電気機器の保守・点検や、環境に配慮した製品について学んだことを活かして検討しようとしている。 ○身の回りにある機器についてどのような保守・点検ができるのかを調べようとしている。 ○正しく安全に工具を使用している。 ○製作品の製作に主体的に取り組もうとしている。 ○安全な生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
5	2 機器のしくみと保守点検					
6	(1) 機器に使われている部品					
7	(2) 電気を使うしくみ					
8	(3) 電気を安全に使う方法					
9	3 実習					
10	エネルギー変換を利用した製作実習					
11	(1) 設計					
12	(2) はんだ付け					
	(3) けがき					
	(4) 切断・切削					
	(5) 組み立て					
	(6) 部品の検査と修正					

1	D 情報の技術 (1) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決 (2) 情報モラルと知的財産	PC、タブレット	7	○ソフトウェアの機能を理解している。 ○デジタル化の方法や情報の量、情報モラルや著作権等の知的財産権について理解し、説明することができる。 ○コンピュータの基本的な操作ができる。 ○ソフトウェアの機能を理解し、活用する技術を身に付けている。 ○情報モラルに配慮し、インターネットを始めとしたネットワークを正しく使用する技術を身に付けている。	○目的や条件に応じて適切な応用ソフトウェアを選択できる。 ○応用ソフトウェアを利用して情報の処理の仕方を工夫できる。 ○応用ソフトウェアの機能を利用して、作品に工夫した内容を表現できる。 ○情報社会の変化とともに、コンピュータやネットワークが持つ働きについて評価し、これからの課題について考えている。 ○情報モラルや知的財産権などに配慮しながら、情報を評価し適切に選択、管理・運用する力を身に付けている。	○安全な生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。 ○生活や産業に使用されているコンピュータの働きや課題について自ら考え、調べようとしている。 ○基本的なプログラムを作成しようとしている。 ○より良い作品にするために制作に取り組んでいる。 ○生活や産業の中で情報の果たしている役割について関心を持ち、情報モラルや知的財産権を考えながら生活に活かそうとしている。 ○安全な生活や社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んでいる。
評価材および評価方法				・ 定期考査 ・ 授業プリント ・ 製作品	・ 定期考査 ・ 授業プリント ・ 製作品	・ 実習の取り組み ・ 授業プリント ・ 製作品